

ケロちゃん通信

2021年 7月 第73号



ながおか医療生協 あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1 電話番号0258-36-5810
http://www.nagaoka-iryu-seikyoku.jp/

☆ 7月1日は当院の開院した日です。早いもので、6周年となりこれから7年目の開始です。みなさまのおかげで何とか継続して診療を行うことができました。5年目までは右肩上がりで順調でしたがコロナ禍の影響で、2020年以降はそれまでとは違う日常が続いています。この時期をなんとか乗り越え、頑張りたいと思っています。

☆ 6月に入ってからRSウイルス感染症の流行が見られています。発熱したりせきこみ、ゼーゼーが見られる場合には早めに受診してください。夏風邪の手足口病も散発してみられています。とびひやあせもなどのお子さんも増え、夏が近づいてきたと実感します。

☆ 地域の皆様の要望にお応えするため、新型コロナウイルスワクチンの接種も専用時間帯を設けて実施予定です。一般の方の予約開示時期に合わせて予約をうけつけたいと思っています。詳細がきまりましたらご連絡いたします。

☆ スギ花粉症やダニによるアレルギー性鼻炎でお悩みの方は、当院でも舌下免疫療法を行っておりますのでご相談ください。

診療案内

- ・感染予防のため、発熱、かぜなどの急性疾患を主に診る一般外来と慢性疾患（感染性のない疾患や定期処方など）を診る慢性外来の診療時間を分けています。

時間	月	火	水	木	金	土
8:30	一般外来 (急性疾患)					
11:00	予防接種 (1歳以上)					10:30~
12:00	慢性外来					
13:45	予防接種 健診 (1歳未満)					
15:00	予防接種 (1歳以上)					
16:00	一般外来 (急性疾患)					
17:30						

- ・平日午前11:00-12:00、午後13:45-16:00、土曜日午前10:30-12:30は、一般診療はできませんので、ご協力お願いいたします。

- ・スマイリーでは、急性疾患は「一般外来」から、慢性疾患・定期処方等は「慢性外来」からご予約ください。
- ・もちろん、急を要するような場合には、すぐにご連絡ください。詳しくはホームページのお知らせをご覧ください。

7月の診療予定：本間医師
(2日午前・午後 9日午前 30日午前・午後)

休診日：28日(水)、29日(木、午前)は都合により休診とさせていただきます。29日(木)午後は井埜医師による代診、30日(金)は本間医師による代診となります。

チックについて 2: 治療

＜治療＞

◇保護者、先生、まわりの人に理解してもらう

「チックはわざとやっているわけではない」、「注意してもよくなるしない」ことを理解し、指摘したり、やめさせようとしたり、叱ったりせずに、チックをしていてもいつもと同じように接してください。学校でも、同様に指導してもらい、症状をからかわれたり、いじめの対象にならないように担任の先生と連携してもらうことも必要です。チックが頻発しているような場合には休める場所に移動するなどの対応も必要になると思います。大半は自然治癒することが多いので、過度の心配は不要ですが、薬物療法などが必要な場合もあるので、ご相談ください。

◇生活習慣の改善

早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的習慣をみにつけるようにしてください。チックも睡眠覚醒リズムと深くかかわっており、規則正しい生活リズム、睡眠は症状改善に役立ちます。ゲームやスマホをやりすぎないようにすることで、症状が改善することがあります。

◇薬物療法

特効薬はなく、薬物療法によって必ずしも症状が改善するわけではありませんが、効果がみられる場合もあり試みる価値はあると思います。

• ドパミン拮抗薬

ハロペリドール、リスペリドンなどのドパミン拮抗薬は、以前より使われてきましたが、眠気、錐体外路症状、体重増加の問題もあり、小児では使いづらい薬でもありました。近年、アビリプラゾールの有効性が報告されており使用機会も増えてきています。

• グアンファジン

アドレナリン α 2受容体作用薬でADHDの治療薬として2017年より承認されていますが、海外ではチックに対する有効性も報告されています。ADHD症状が併存する場合、チックがあるとメチルフェニデートは使用できないこともあり、グアンファジンが有効な場合があります。

• 少量L-dopa療法

ドパミン活性低下による受容体過感受性に対して用いられます。保険外適応で、当院では使用しづらいですが、大きな副作用もなく今後の使用拡大が望まれています。

• その他

漢方薬 抑肝散、クロナゼパム、トピラマートなどの薬剤や、合併する強迫神経症、不安症、むずむず足症候群に対する治療薬の併用も選択肢の一つになります。

更に専門施設では認知行動療法、マウスピースなども試みられています。

他の病気と同じように症状は軽症から重症まであり、合併症も様々ですが、ご心配であればいつでもご相談ください。

